

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年1月27日 金曜日

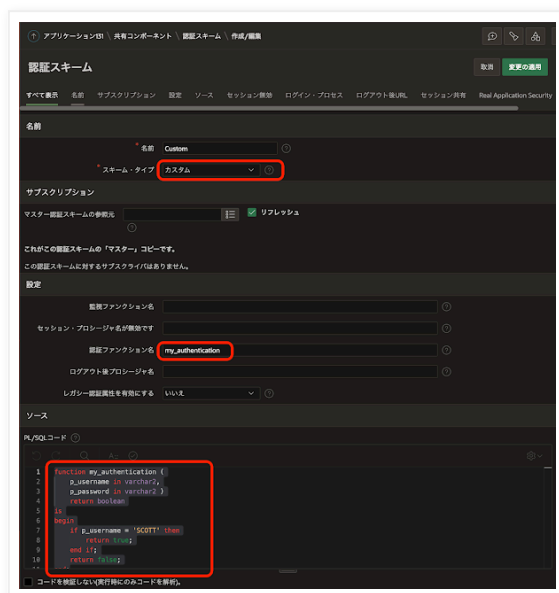
異なるアプリケーションでのセッション共有について

認証スキームが異なるアプリケーションで、セッション共有を行なった際の動作を確認します。

まずMain Appという空のアプリケーションを作成します。

認証スキームは**カスタム**として、以下のコードで認証します。ユーザー名がSCOTTの場合だけ、アプリケーションにアクセスできます。

```
function my_authentication (  
    p_username in varchar2,  
    p_password in varchar2 )  
    return boolean  
is  
begin  
    if p_username = 'SCOTT' then  
        return true;  
    end if;  
    return false;  
end;
```



異なるアプリケーションとセッションを共有するため、**セッション共有のCookie名**に**TEST_SESSION_SHARING**を設定します。

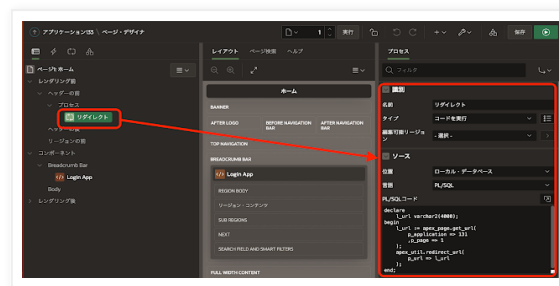
同様に空のアプリを作成します。名前はLogin Appとします。

認証スキームは**セッション共有**も含み、同じ設定を行います。コードだけは以下に変更します。こちらはユーザー名としてTIGERだけが許可されます。

```
function my_authentication (
    p_username in varchar2,
    p_password in varchar2 )
    return boolean
is
begin
    if p_username = 'TIGER' then
        return true;
    end if;
    return false;
end;
```

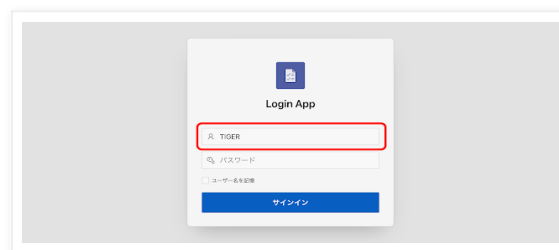
Login Appのホーム・ページにプロセスを作成します。以下のコードを実行することで、アプリケーションの認証直後に、すぐにMain Appへリダイレクトします。apex_page.get_urlの引数p_sessionのデフォルトは、すでに開始しているセッションになります。

```
declare
    l_url varchar2(4000);
begin
    l_url := apex_page.get_url(
        p_application => 131
        ,p_page => 1
    );
    apex_util.redirect_url(
        p_url => l_url
    );
end;
```



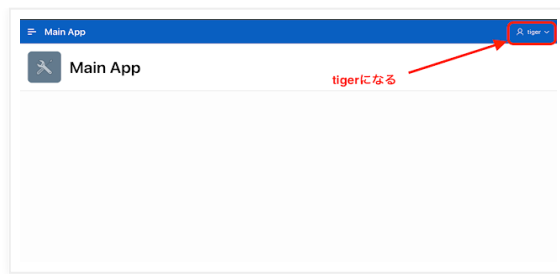
Login Appにアクセスします。

Login AppにサインインできるユーザーはTIGERだけです。



サインインした直後にMain Appにリダイレクトします。セッションを共有しているため、Main Appの認証スキームによるサインインはバイパスされます。

Main Appの認証スキームでは本来認証されないユーザーであるTIGERで、Main Appにアクセスしていることが確認できます。



認証スキームが異なっても、セッション共有はできます。場合によってはセキュリティ・ホールになるため、設定には注意が必要です。

完

Yuji N. 時刻: 19:42

共有

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.